

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	岡山大学
置者名	国立大学法人岡山大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	人文学科	夜・通信	72	0	67.5	139.5	13	
教育学部	学校教育教員養成課程 養護教諭養成課程	夜・通信	72	0	198	270	13	
法学部	法学科	夜・通信	72	0	29	101	13	
法学部	法学科	①夜・通信	72	0	4	76	13	
経済学部	経済学科	夜・通信	72	0	25	97	13	
経済学部	経済学科	①夜・通信	72	0	6	78	13	
理学部	数学科 物理学科 化学科 生物学科 地球科学科	夜・通信	72	3	0	75	13	
医学部	医学科	夜・通信	72	0	195	267	19	
	保健学科	夜・通信	72	0	212	284	13	
歯学部	歯学科	夜・通信	72	0	111.3	183.3	19	
薬学部	薬学科	夜・通信	72	0	59	131	19	
	創薬科学科	夜・通信	72	0	25.75	97.75	13	
工学部	工学科機械システム系	夜・通信	72	12	21	105	13	
	工学科環境・社会基盤系	夜・通信	72	12	85	169	13	
	工学科情報・電気・数理 データサイエンス系	夜・通信	72	12	37	121	13	

	工学科化学・生命系	夜・通信	72	12	8	92	13	
	工学科情報工学先進コース	夜・通信	72	12	4	88	13	
	機械システム系学科	夜・通信	72	12	16	100	13	
	電気通信系学科	夜・通信	72	12	16	100	13	
	情報系学科	夜・通信	72	12	16	100	13	
	化学生命系学科	夜・通信	72	12	7	91	13	
環境理工学部	環境数理学科	夜・通信	72	0	1	73	13	
	環境デザイン工学科	夜・通信	72	0	41.5	113.5	13	
	環境管理工学科	夜・通信	72	0	6	78	13	
	環境物質工学科	夜・通信	72	0	2	74	13	
農学部	農学科	夜・通信	72	0	16	88	13	
	総合農業科学科	夜・通信						
グローバル・ディスカバリー・プログラム		夜・通信	72	0	11	83	13	
(備考) 2021 年度より工学部と環境理工学部が統合し、「工学科 機械システム系/環境社会基盤系/情報・電気・数理・データサイエンス系/化学・生命系」を設置。 2024 年度より工学部に「工学科 情報工学先進コース」を設置。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/syllabus_link.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	岡山大学
設置者名	国立大学法人岡山大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/profile04.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	大分大学 理事（総務，財務，広報担当）・事務局長	2025.4.1～ 2027.3.31	財務・施設担当
非常勤	岡山県企業と大学との 共同研究センター長	2025.4.1～ 2027.3.31	地域共創担当
非常勤	株式会社フジワラテクノ アート 代表取締役 社長	2025.4.1～ 2027.3.31	ウェルビーイング 経営担当
（備考）			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岡山大学
設置者名	国立大学法人岡山大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバスについては、フォーマットは全学で統一としたうえで、授業内容、到達目標、教科書、成績評価の方法などの基本項目を定めている。また、フォーマットの詳細は定期的に見直すこととしている。 各授業担当教員は、全学統一シラバスフォーマットに、「シラバス作成上の留意事項」「シラバス入力の手引き」等に従い、シラバスを作成する。 全授業科目において学生の履修登録開始前の3月末までに日本語版、英語版シラバスを作成し、HPにて公開しており、学外からも閲覧可能としている。	
授業計画書の公表方法	https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/syllabus_link.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各授業科目の到達目標、成績評価の方法・基準等は、シラバスに明記することにより、予め学生に周知し、学生からの質問や疑問には適切に応じている。 成績評価は、授業の形態(講義、実験、実習、演習、実技等)に対応し、期末テストのみに偏重することのないよう、出席、学習態度、報告・発表、レポート、テスト等の多様な要素を組み合わせ、多面的な方法によって行っている。 また、成績評価の客観性を担保すると共に国際的に通用するルーブリックの事例集を全学に提示し、ルーブリックに基づく成績評価を推進している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) GPA 制度を導入し、HP 及び各学部学生便覧等にて学生に周知している。GPA は、以下の計算式で算出した GP (グレートポイント) を用いて算出する。 $GP = (\text{評点} - 55) / 10$ ※ 不合格 (評点 60 点未満) の GP は「0」とする。 GPA の計算式は、以下のとおり 分子…履修登録した授業科目の単位数×その授業科目の GP の総和 分母…履修登録した授業科目の単位数の合計 ※「認定」又は「修了」の評語により、単位を修得した科目や履修登録の取消手続きをした科目は、GPA 算出の対象とはならない。 各自の GPA は学生本人及び指導教員等は随時確認が可能となっており、個々の学生への指導の際や、各種選考の基準、教学 IR の分析データなどに活用されている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/gpa.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本学では、ディグリー・ポリシーを全学、各学部・学科単位で定め、HP、大学案内、学生便覧等にて公開している。本学におけるディグリー・ポリシーとは、卒業に際し、当該課程における要件として学生が身につけているべき能力を明示したものであり、平成 30 年度より、学生が履修する授業科目によって「何ができるようになるか」を明確化し、どのような学習成果を上げれば卒業を認定し、学位を授与するのかという方針をできる限り具体的に示すことを目的として、観察可能な能力を「カリキュラム・マップ」及び「カリキュラム・ツリー」として明示しディグリー・ポリシーと関連付けしている。 定められた卒業要件を満たすことがディグリー・ポリシーで示す学生が身につけているべき能力を満たすこととなり、学生の修得単位数等を踏まえ、学部長の申し出により学長が卒業を認定している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/education-policies.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	岡山大学
設置者名	国立大学法人岡山大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/zaimu_syohyoR6.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/zaimu_syohyoR6.pdf
財産目録	—
事業報告書	https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/jigyoR6.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/kanji_iken_r6.pdf

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：	対象年度：	）
公表方法：		
中長期計画（名称：	対象年度：	）
公表方法：		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/user/tqac/tenken/report5/

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
（概要） 本学部は、人文科学諸領域の文化を総合し、新たな価値を創造するため、専門の学術を教育研究し、知的、感性的能力を涵養して社会的要請に応ずる人材を育成し、世界文化の進展に寄与することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-let.pdf ）
（概要） 文学部は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。 修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力 【実践力】人間をめぐる多様な課題の解決を目指し、創造的に活動できる実践力 人間と世界についての多様な理解をもとに、課題の解決を目指し、新たな時代を創るために行為することができる。 【探究力】人間をめぐる多様な課題を発見し多面的に追求する探究力 人間の関わる様々な領域、とりわけ社会・思想・文化・歴史・心・地域・言葉に対する論理的思考力を働かせ、現代の課題を見出し探求することができる。 【コミュニケーション力】他者と議論し協働するコミュニケーション力 必要な情報を収集し、適切な方法で客観的に分析・考察し、その過程と結果を他者と共有し議論することを通して協働することができる。 【専門力】人文学の様々な分野に関わる専門力 人文学の多様な専門分野における学識と技能、すなわち文献の読解、資料の分析、あるいは実験・調査を行う能力を修得し、それらを活用することができる。 【教養力】幅広い視野を獲得する教養力 人文学的見地に基づいた課題の発見と解決の方法について学ぶことで、豊かな感性、先入観に惑わされない公正な思考、自分を客観的に把握する能力を身につけ、生涯にわたる幅広い視野を獲得することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-let.pdf ）
（概要） 卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、文学部として以下の方針及び考え方に基づき、教育課程を編成し、実践します。 教育の実施方針 現代の社会における課題解決に向けて、学生が人文学の視点から主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容の考え方

人文学の深い学びの視点から、学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる多面的な教養と汎用的な技能の育成を目指し、多様な学生と交流し共に学ぶ教育を提供します。

自分自身とは異なる考えを持つ人とも対話や協働を可能にするために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

【専門教育】

人文学の専門領域の内容を体系的に学ぶことによる深い学識と、様々な専門領域を多面的に学ぶことによる広く学際的な知識を修得する機会を提供します。

自身の専門領域の基礎的かつ体系的な知識と技能を深く学び、同時に専門外の様々な領域についても広く学ぶことにより、他者との協働の中で人文学を総合的に理解するカリキュラムを提供します。

人間に深く関わる思想・芸術・社会・文化・地域・心理・歴史・言語・文学を総合的に探究するため、「哲学・芸術学」「地理学・社会学・文化人類学・社会文化学」「心理学」「歴史学・考古学」「言語文化学」の5つの教育分野を設置しています。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要となる多面的な言語能力を伸ばし、多言語教育の機会を提供します。

すべての学びの基礎となる日本語能力（聞く・読む・話す・書く力）を1年次の「人文学への招待」から継続的に育成するとともに、そのもとで英語を始めとする諸外国語を、その文化的・歴史的背景とともに多面的に学ぶ機会を提供します。実践演習では外国語や古文・漢文の文献読解の技法を学び、共通科目では英語・ドイツ語・フランス語・ギリシア語・ラテン語・ロシア語・オランダ語・韓国語・中国語など多様な外国語を学ぶ機会を提供します。留学生には日本文化の理解に基づいた総合的で高度な日本語能力を学ぶ機会を提供します。

教育方法の考え方

1年次では、「人文学への招待」「人文学入門」で大学での学習・研究の基礎となる知識や方法について学びます。また、2年次以降は、各分野の学問の基本体系を学ぶ「人文学概説」、各分野の学術研究の最新の成果を解説する「人文学講義」、各分野の研究の技法を実践的に学ぶ「実践演習」、卒業論文の作成のための実地指導である「課題演習」を開設しています。演習科目においては少人数教育を重視し、ディスカッション等を通じて、生きた知識を身につけることを目指します。

文学部では、プログラム制を導入し主専攻プログラム・総合人文学プログラム・アドバンスプログラム（心理職養成プログラム、学芸員養成プログラム、外国語習得・留学プログラム、研究力養成プログラム）を開設しています。

入学後1年次生は、指導教員やアカデミック・アドバイザーの支援を受けながら、どのような授業科目を履修し、どのような知識や能力を身につけて卒業するかという4年間の学修計画を主体的に立案します。その後も指導教員やアカデミック・アドバイザーの継続的な支援のもと、学修計画を修正しつつ卒業論文作成に向けて学修を進めていくことになります。4年次での卒業論文作成をもって、文学部で培ってきた実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力を総合し、4年間の学びの集大成とします。

学修評価の考え方

授業科目の成績評価については、その基準・方法（授業参加・発表・レポート・試験など）をシラバスなどで予め明示し、それに基づいて学修成果を厳格に評価します。

卒業論文については、審査基準・方法を明示した上で、主査・副査2名以上による査読及び口述試験を行い、それに基づいて厳格に評価します。

正課外教育の考え方 学生が授業での学びを越えて広く知を求め他者と交流する正課外の機会を提供します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-let.pdf）
（概要） 文学部は、以下に掲げた力を身につけた人を求めます。 求める人材像 岡山大学のアドミッション・ポリシーのもと、文学部では、課題に取り組む実践力、課題と自らの考えを結びつける探究力、自らの課題や構想をわかりやすく的確に表現できる力、学びそのものに興味を持ち工夫できる力や、高校卒業程度の基礎的な知識と語学力を身につけている人を広く求めます。 入学後の学修のため、特に以下の教科の内容を修得していることが望まれます。 【国語、外国語、地理歴史、公民】 求める力 【実践力】 自らの課題と取り組むことができる 【探究力】 課題に対する自らの考えを導き出すことができる 【コミュニケーション力】 自らの疑問や興味、考えをわかりやすく的確に表現できる 【専門力】 高校卒業程度の基礎的な知識・語学力を備えている 【教養力】 学びそのものに興味を持ち、工夫することができる

学部等名 教育学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html）
（概要） 本学部は、管理学則に示す大学の目的を達成するとともに、教育の理論及び実際を教授研究し、学校教育の分野等で活躍する有為な人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-edu.pdf）
（概要） 教育学部は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。 修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力 【実践力】教育活動を展開できる探究力を基盤とした実践力 特色ある教育活動を展開するために常に探究心をもった教育者として活躍することができる。 【探究力】自ら問うて、課題を見出す探究力 自ら理論を基盤とした実践と、理論を通じた学びから課題を見出し、学校教育の推進のために自己研鑽を続けることができる。 【コミュニケーション力】情報を収集し発信できる能力を有し、良好な人間関係を構築するコミュニケーション力 必要な情報を収集・分析し、正しく活用できる能力を有し、効果的な情報発信ができることに加えて、周囲との良好な人間関係を構築できる。

【専門力】教育者として社会に貢献できる専門力

教育に関する諸科学の知識と技能を幅広く習得し、倫理観を持って創造的に教育実践で
きる。

【教養力】自然や社会に関心を持ち、継続して学ぶ教養力

自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、問題解決に向けて論理的思考力・判断力・
創造力を発揮するために、学び続けることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-edu.pdf）

（概要）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成
するため、教育学部として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践しま
す。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施しま
す。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるように
なったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

教師をめざす学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合
う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

教育者としての自覚を促し、子供理解と人間関係を構築する力の育成、教育システムの
理解等を目指すカリキュラムを提供します。

【専門教育】

教育に関する諸科学の知識と技能を幅広く身につけ、理論と実践を往還しつつ、反省的・
創造的な教育実践を開発する機会を提供します。

教師としての力量を形成する専門知識及び技能、自身の専攻する校種や教科等に対応し
た提案的な教育活動を構想・実践力を身につけるカリキュラムを提供します。

【言語教育】

グローバルマインドとリサーチマインドを持ち、品位と思いやりを備えた教育者として
社会を生きるうえで必要とされるコミュニケーション力と行動力を伸ばす教育を提供しま
す。

聞く、読む、話す、書く、を統合した総合力を伸ばすために必要な英語、子供理解と異
文化理解の科目群を通じて言語と対話力を学ぶ機会を提供します。加えて、学校現場で求
められる教育支援を理解する機会を創出します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

① 自身の可能性を主体的に広げる教育方法を展開します。

人が交わる共通教育、知が交わる専門教育、言葉が交わる言語教育を通して他者を理解
し、切磋琢磨しながら、自身の可能性を広げる教育方法を実施します。

②総合大学の特長を活かした教育体系を提供します。 自らの専門を尊重しながらも、様々な専門との出会いにより、共に考え、共に動き、共に創り、共に育む教育体系を全ての課程で展開します。 ③学生の成長に応じた実践的な教育プログラムを提供します。 留学やインターンシップ、プラクティカム等、地域や世界とつながった実社会における学びを提供します。 学修評価の考え方 厳格な学修評価を実施します。 講義科目では主に総括的評価を、実習・演習科目では主に形成的評価を重視します。教師を目指す学生としての基幹的な資質・能力の修得状況について、A+・A・B・C・F評価で実施し、到達目標の概ね達成の基準Cを設定しています。各科目の評価方法はシラバス等により履修者に示します。卒業研究は、審査基準・方法を明示するとともにそれらに基づいた成果の最終審査・試験を行います。 正課外教育の考え方 学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。 入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-edu.pdf） （概要） 教育学部は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。 求める人材像 教育および子供の発育発達と心身の健康について関心と熱意をもち、子供の全人的成長および学校教育の発展、さらには地域社会に貢献したいという明瞭な目的意識を持つ、以下の人材を求めています。 求める力 【実践力】 子供たちと一緒に活動することが好きで、学ぶことの楽しさを伝えるために、何事にも興味を持ち、意欲的に取り組むことができる。 【探究力】 学校教育および子供の発育発達と心身の健康について知的探究心を持っている。 【コミュニケーション力】 自らの考えを表現することや、様々な人を理解することを通して、良好な関係を築くために努力することができる。 【専門力】 学校教育の推進や子供の全人的成長に対応するために必要な基礎学力を持ち、多様な専門教育への興味・関心を持っている。 【教養力】 自然や社会に幅広く関心を持ち、学び続けることができる。

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
（概要） 本学部は、法学を教授研究することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-law.pdf ）

(概要)

法学部は、学部「教育の基本的目標」に基づき、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、学部の定める授業科目の履修を通じて所定の単位を修得した学生に学士の学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】課題の解決に進んで挑む実践力

現代社会に生起する諸事象における法学および政治学に関連する課題に対し、自ら判断し解決しようとする姿勢と解決のための基礎的な能力を備えている。

【探究力】多角的な視点から科学的に分析し、課題を見出す探究力

グローバル化が進む現代社会の諸問題について、歴史のおよび国際的な視野から多角的に捉え、法学および政治学等の知識を活用して科学的に分析、判断し、取り組むべき具体的な課題を明らかにすることができる。

【コミュニケーション力】多様性を認めながら他者と協働するためのコミュニケーション力

多様性や包摂性といった共生・共創のための国際感覚とともに、グローバル化および情報化する社会で多様な人々と協働して活躍できるコミュニケーション能力を身につけ、自らの意見を論理的に展開し、的確に行動することができる。

【専門力】具体的な問題解決策を提示できる法的思考能力（専門力）

法や政治等に関する実践的課題に対応できる法的思考能力（リーガル・マインド）を身につけ、具体的な問題に解決策を提示することができる。

【教養力】柔軟かつ適正な判断を支える幅広い教養力

グローバル化が進む現代社会に対する深い理解とともに、様々な社会集団、社会活動に起因する諸問題に対して、柔軟かつ適正な判断をするために幅広い教養を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-law.pdf）

(概要)

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、法学部として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

自身の考えと異なる人との対話や協働を進めるために、国際社会や地域社会の多様な課題の解決に必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

法学・政治学の体系的な専門知識及び技能を、学生同士が切磋琢磨することにより身につけられるように、各学年で少人数教育を実施するなど多様な学びの選択肢を提示し、社会の実践的課題に対応できる法的思考能力（リーガル・マインド）の修得を目指します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な英語、異文化理解の科目群を通じて言語を学ぶ初修外国語、留学生には日本語、それぞれを学ぶ機会を提供します。加えて、正課のみならず正課外においても言語を学ぶ機会を創出します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

①知識と実践の双方を重視した、主体性を育む教育を展開します。

共通教育、専門教育、言語教育のいずれの分野においても、知識のみならず、実践を取り入れることによって、自ら課題を発見し、解決しようとする、主体性を育む教育を実施します。

②総合大学の特長を活かした教育体系を提供します。

自らの専門を尊重しながらも、様々な専門との出会いにより、共に考え、共に動き、共に創り、共に育む教育体系を全ての課程で展開します。

③学生の成長に応じた実践的な教育プログラムを提供します。

実務家の生きた知見に触れる授業を開講するとともに、留学やインターンシップの機会を積極的に設け、地域や世界とつながった実社会における学びを提供します。

学修評価の考え方

法学部では、授業科目の成績評価について、その基準・方法を予めシラバスに明示し、それらに基づいて学修成果を評価します。

より具体的には、試験、レポート、授業中の報告・発表、授業への参加状況など授業の形態に応じて組み合わせた方法によって、法学および政治学その他当該科目に関する基礎的知識を修得していること、修得した知識を活用して問題を発見・解決するために必要な思考力、判断力、分析力、発信力を身に付けていることが厳格に判定されます。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外活動を奨励します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-law.pdf）

（概要）

法学部は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

求める人材像

グローバルな視点から柔軟にものごとを考えようとする探究力、先人の築いた知から、自ら課題を発見し、粘り強く考え、解決策を見出して行動していかようとする実践力、持続可能な社会の実現といった世界の動きに広範な関心を持ち、自らの課題や構想を分かり易く伝えることができる表現力と語学力、学びそのものへの興味を持ち堅実な努力を重ねることができる継続力を身につけている人材を広く求めます。

求める力 【実践力】 より良い社会の形成へ向けて、自ら具体的な目標を設定し、それを実現するため積極的に行動することができる。 【探究力】 自ら発見した課題に関する情報を収集して整理し、グローバルな観点から解決策を考えることができる。 【コミュニケーション力】 多様性や包摂性といった価値の重要性を理解するとともに、自らの考えを筋道立てて展開し、話し合いや議論を通じて、他者と協働できる。 【専門力】 法や政治を中心とした社会に関する基礎的な知識を身につけ、世の中のさまざまな課題へ向きあうことができる。 【教養力】 国内外におけるさまざまな社会・文化に対する関心のもと、幅広い学びを通じて、多角的な視点から柔軟な思考を行うことができる。
--

学部等名 経済学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
（概要） 本学部は、経済学及び経営・会計学に関する専門の学術を教授研究し、社会的要請に応える人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-eco.pdf ）
（概要） 経済学部は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。 修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力 【実践力】課題の解決に向けて、意欲的・積極的に取り組む実践力 直面する課題の解決に向けて、自ら意欲的・積極的に行動することができる。 【探究力】社会や経済の本質を理解し、課題を見出す探究力 冷静に物事の本質を理解し、何が問題なのかを明らかにすることができる。 【コミュニケーション力】他者を尊重し協働するコミュニケーション力 他者の意見や多様性を理解して尊重し、協働することができる。 【専門力】経済学・経営学・会計学の知識に基づく専門力 経済学・経営学・会計学の専門的知識と分析力を活用することができる。 【教養力】幅広い学びから柔軟な思考を導く教養力 幅広く学ぶことで自らの好奇心を刺激し、柔軟な思考力を持つことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-eco.pdf ）

(概要)

卒業認定・学位授与の方針(ディグリー・ポリシー)で掲げた力を修得した人材を養成するため、経済学部として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたのか」から学生が「何ができるようになったのか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

具体的には、経済・経営・会計の専門性を支える基盤を作るため、1年次に専門基礎科目を提供します。経済学部の教育・研究がカバーする領域は広く、1年次は、各専門分野に共通する専門基礎科目群から幅広く履修することによって、経済・経営・会計全般に関する基礎知識を修得し、2年次からの本格的な専門教育に備えます。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、想像したりすることができる機会を提供します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

専門教育科目以外では、聞く、読む、話す、書くの力を総合的に伸ばすために必要な科目群を学ぶ機会を提供します。専門科目では、2年次以上を対象に、英語による科目を提供します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

- ・経済学、経営学、会計学における高度な専門知識とその応用力を修得するために、講義形式及び演習形式の科目を履修します。
- ・特に基礎研究や卒業研究、実践コミュニケーション論などの演習形式の科目はアクティブ・ラーニングを用いて実施されるため、当該科目の履修によって、報告・発表の経験を積み重ね、能動的な学修を身につけます。それによって、学生同士や教職員との対話を通じて、他者と協働できるコミュニケーション力を養います。
- ・経営者、公務員など、現場の一線で働かれている方々を講師とした多様な講義・演習科目を提供します。演習科目では、企業が抱える現実の課題に対し、チーム毎の解決策を考えていきます。それによって、社会的な課題を発見する力や解決を導く実践力を養います。

学修評価の考え方

- ・講義科目の学習成果は、シラバスに記載された学修目標の達成度という観点から、科目の特徴に合わせて、試験・レポート・授業での課題等により評価します。評価方法はシラバス等により明示します。
- ・基礎研究や卒業研究は、課題への取り組み状況や成果の発表状況等により総合的に評価します。キャリア教育科目は、レポート・授業での課題等により評価します。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを超えて自らの成長を実感できるように、学者・実務家を招き講演会を開催し、交流の場も設けています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-eco.pdf）
（概要） 経済学部は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。 求める人材像 経済学部では、先人の築いた知から経済や社会の課題に迫る実践力、課題と自らの考えを結びつける探究力、自らの課題や構想を他人に分かりやすく伝えられる力、経済や社会に関する基礎的な知識と語学力、学びそのものへの興味を持ち思考力を駆使できる人材を広く求めます。 求める力 【実践力】 経済や社会に広く関心を持ち、より良い社会の形成へ向けて、意欲をもって積極的に取り組める人。 【探究力】 経済や社会を動かしている仕組みを理解して、現実の経済や社会が抱える課題を丁寧に考えられる人。 【コミュニケーション力】 より良い社会の形成へ向けた課題の発見と解決に際して、お互いを尊重し個々の多様性を認めた対話ができる人。 【専門力】 経済や社会に関する基礎的な知識を身に付け、現実の経済や社会の課題へ向き合うことができる人。 【教養力】 現実の社会に興味を持ち、より良い社会の形成を目指して柔軟な思考力を駆使できる人。

学部等名 理学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html）
（概要） 本学部は、自然科学の基礎を教授研究し、創造的、思考的及び分析的能力を備えた有為な人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-sci.pdf）
（概要） 理学部は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。 修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力 【実践力】自ら進んで、課題解決に挑む実践力 課題と向き合い、国際的な舞台で、科学的な知識と考え方で解決に向けて行動することができる。 【探究力】自ら問うて、課題を見出す探究力 多角的な視点で対象を把握し、論理的思考により課題を明らかにすることができる。 【コミュニケーション力】語り聴くことを通して、差異から学ぶコミュニケーション力 科学的な考え方で論理的な説明ができ、他者との議論を通して物事を理解し自らを高めることができる。

【専門力】基礎的かつ体系的な専門力

各学科それぞれの専門分野を学ぶことによって、様々な自然現象の背後にある普遍的な法則や原理を理解するとともに、修得した知識や技能を体系的に組み立て、様々な問題を発見し、その解決に意欲的に取り組むことができる。

【教養力】自然や社会に関心を持ち、学びを習慣化する力（教養力）

自然や社会のさまざまな事象に好奇心を持ち主体的に学び続けることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-sci.pdf）

（概要）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、理学部として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び成長し続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「教員が何を教えたか」から「学生が何をできるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

自身の考えと異なる人との対話や協働を進めるために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

専門科目においては、専門分野の知識や技能を初年次から体系的に修得します。さらに、修得した専門知識を自ら実践・確認し、より深く理解できるようにするための演習や実験、課題研究に取組み、社会の要請に応える自然科学の専門知識と課題発見・問題解決の実践的な能力を身につけます。また、専門基礎科目や理学部共通科目などにおいては、異なる専門領域にまたがる統合的、学際的な知識や技能を身につける機会も提供します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる語学力を伸ばす教育を提供します。

聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な英語を、異文化理解の科目群を通じて言語を学ぶ初修外国語を、留学生には日本語を、それぞれ学ぶ機会を提供します。専門教育においても、専門分野の学びや研究活動を、英語を用いて実践する機会を提供します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

- ① 理学部では、各学科とも専門分野を体系的に学ぶため4年間の一貫した教育コースを設定しています。また、各学科の開講科目を中心に履修し高い専門性を習得するための「専門力プログラム」の他に、科学の最先端で活躍できる研究者・技術者・教育者を目指すための「フロンティアプログラム」（フロンティアコース、フロンティアサイエンティスト特別コース）、学科横断的に学際領域を幅広く学び新しい研究分野で活躍す

ることを目指す「学際プログラム」（理学系数理・データサイエンスコース、複合領域科学コース）を加えた3プログラムを設定し、学修者は個々の志望に合わせた主体的な学びでディグリー・ポリシーに掲げる学士力を身につけていきます。

② 各学科の履修プログラムで定められた卒業要件を満たすように、1年次から4年次までの必修科目・選択必修科目・選択科目を履修することにより、各学科の専門分野の知識や技能・考え方を修得します。専門分野の教育では、講義に加え、演習・実験・実習・ゼミナールなどの少人数教育の利点を生かした実践的な授業も多数設定されており、専門科目で修得した知識を自ら実践・確認し、より深く理解できるような教育内容となっています。

③ 学部教育の集大成として4年次で履修する「課題研究」は、配属された研究室において個々の課題の研究やゼミナールを中心とした密度の濃い専門教育を通して、先端的な研究を自ら実施することで、社会の要請に応える自然科学の専門知識と課題発見・問題解決の実践的な能力を獲得できる内容になっています。なお、理学部では、卒業要件単位の他に、「課題研究」を履修するために必要な単位数を設定しています。これは汎用性のある専門知識と論理的な知識の体系化ができてこそ、専門分野における未知の課題に挑戦できるからです。

学修評価の考え方

授業科目の成績評価については、その基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を評価します。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の活動を推奨します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-sci.pdf）

（概要）

理学部は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

求める人材像

岡山大学の求める人材像である「先人の築いた知から課題に迫る実践力、課題と自らの考えを結びつける探究力、自らの課題や構想を分かり易く表現できる力、自然や社会に関する基礎的な知識と語学力、学びそのものへの興味を持ち工夫できる力を身につけている人材」を基本として、次のような学生を求めています。

1. 自然科学の基礎を学び、その知識や能力を社会で活かしたいと考える人
2. 自然現象を原理や法則から理解したいと考える人
3. 真理探究への情熱をもっている人

求める力

岡山大学及び理学部が掲げる「教育目標における5つの力」を達成しうる資質として、次の力を求めます。

【実践力】

身につけた科学的な知識と考え方から課題解決に向け行動する力

【探究力】

自然科学の探究に情熱を持ち、課題に対する自らの考えを導き出す力

【コミュニケーション力】

自らの考えを科学的に分かり易く表現し議論を深める力

【専門力】

自然科学の専門分野の学びに必要な数学・理科・英語に関する基礎的な学力

【教養力】

自然や社会に関心を持ち主体的に学ぶ力

学部等名 医学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
（概要） 本学部は、医の倫理に徹し、科学的思考法と高度の医学的知識を体得し、社会的信頼を得るに足る臨床医及び医学研究者を養成すること並びに高い臨床能力を持つ医療技術者及び医療技術科学の研究者を養成することを教育目的とし、もって人類の健康と福祉に貢献することを使命とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-med.pdf ）
（概要） <医学科> 医学部医学科は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。 修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力 【実践力】他者と繋がり医学・医療の課題解決に挑む実践力 医療者、医学研究者として、地域・世界の多様な医療課題の解決に向けて高い倫理観を持って自ら進んで行動することができる。 【探究力】生命や事象をありのままに捉え、医学・医療の課題を見出す探究力 医療者、医学研究者として、恒常的な医療の質向上に向けて、絶えず学術的且つ多角的な視点で課題を見つめ取り組むことができる。 【コミュニケーション力】医学・医療において他者と繋がり学び合うコミュニケーション力 医療者、医学研究者として、多様な方法を適切に用いながら、共感性豊かな対話と傾聴によって差異を超えて互いを高め合うことができる。 【専門力】地域・世界の医学・医療が求める基礎的かつ体系的な専門力 医療者、医学研究者として、専門領域における基盤的知識・技能を高い水準で身につけ、必要に応じてしなやかに伸長させながら的確に発揮することができる。 【教養力】医学・医療や社会に関心を持ち、学びを習慣化する力 医療者、医学研究者として、地域・世界の多様な医療課題に関心を持ち、豊かな人間性と深い教養を身に付けるために絶えず好奇心を持って学び続けることができる。 <保健学科> 医学部保健学科は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。 修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力 【実践力】医療・保健のリーダーとして課題解決に挑む実践力 個人ならびに医療チームの一員として、高い倫理観を持って時代と社会をリードして、地域・世界の多様な医療課題の解決のために、自ら進んで行動することができる。 【探究力】生命や事象をありのままに捉え、医療・保健の課題を見出す探究力 高度医療人および研究者として、恒常的な医療の質向上のために、絶えず学術的かつ多角的な視点で課題を見出し、改善に向けて取り組むことができる。

【コミュニケーション力】医療・保健において他者と繋がり学び合うコミュニケーション力

高度医療人および研究者として、多様な方法を適切に用いながら、共感性豊かな対話と傾聴によって、差異を超えて互いを高め合うことができる。

【専門力】地域・世界の医療・保健が求める基礎的かつ体系的な専門力

高度医療人および研究者として、専門領域における基盤的知識・技能を高い水準で身につけ、必要に応じて健康に関わる技術開発や課題解決に活用できる。

【教養力】人間性に富む医療実現のため絶えず好奇心を持って学び続けることができる教養力

高度医療人および研究者として、地域・世界の多様な医療・保健の課題に関心を持ち、人間性に富む医療のための豊かな教養を身に付けるため、絶えず好奇心を持って学び続けることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-med.pdf）

（概要）

＜医学科＞

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、医学科として以下の方針及び考え方に基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会における医学・医療の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、医学・医療において「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

自身の考えと異なる人との対話や協働を進めるために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

【専門教育】

医学領域の多彩な教育内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、協働を通して創造したりすることができる機会を提供します。

自身の考え方を豊かにする異分野の知識や技能、自身の専門を築いていく体系的かつ標準的な医学領域の知識及び技能を、学生同士が切磋琢磨することにより身につけるカリキュラムを提供します。

【言語教育】

医療者、医学研究者として、グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

聞く、読む、話す、書く、を統合した総合力を伸ばすために必要な英語、異文化理解の科目群による初修外国語に加えて、医学領域の専門科目についても英語を用いて学ぶ機会を提供します。加えて、正課のみならず正課外においても医学英語を学ぶ機会を創出します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

- (1) 自身の可能性を主体的に広げる教育方法を展開します。
人が交わる共通教育、知が交わる専門教育、言葉が交わる言語教育を通して他者を理解し、切磋琢磨しながら、自身の可能性を広げる教育方法を実施します。
- (2) 総合大学の特長を活かした教育体系を提供します。
自らの専門を尊重しながらも、様々な専門との出会いにより、共に考え、共に動き、共に創り、共に育む教育体系を医学科の全科目で展開します。
- (3) 学生の成長に応じた実践的な教育プログラムを提供します。
学士課程では学内外及び国内・国外の医療現場における実習・演習やリサーチ・インターンシップ等、地域や世界とつながった実践的な学びを提供します。

学修評価の考え方

厳格な学修評価を実施します。

医学科における授業科目の成績評価については、基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を評価します。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

＜保健学科＞

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、保健学科として以下の方針及び考え方に基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会における医療・保健の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、医療・保健において「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

自身の考えと異なる人との対話や協働を進めるために必要な知識や技能を身につけ、他の学生と学び合い、共に育ち共に創る実践的なカリキュラムを提供します。

【専門教育】

自身の考え方を豊かにする異分野の知識や技能、自身の専門を築いていく体系的かつ標準的な医療・保健領域の知識及び技能を、学生同士が切磋琢磨することにより身につけるカリキュラムを提供します。

【言語教育】

高度医療人、研究者として、グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な英語、異文化理解の科目群による初修外国語に加えて、医療・保健領域の専門科目についても英語を用いて学ぶ機会を提供します。加えて、正課のみならず正課外においても医学英語を学ぶ機会を創出します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

- (1) 自身の可能性を主体的に広げる教育方法を展開します。

人が交わる共通教育、言葉が交わる言語教育、知が交わる専門教育を通して他者を理解し、切磋琢磨しながら、自身の可能性を広げる教育方法を実施します。

(2) 総合大学の特長を活かした教育体系を提供します。

自らの専門を尊重しながらも、他の様々な専門との出会いにより、共に考え、共に動き、共に創り、共に育む教育体系を保健学科の全科目で展開します。

(3) 学生の成長に応じた実践的な教育プログラムを提供します。

学内外および国内・国外の医療現場における実習・演習やインターンシップ等、地域や世界とつながった実践的な学びを提供します。

学修評価の考え方

厳格な学修評価を実施します。

保健学科における授業科目の成績評価については、基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を評価します。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-med.pdf）

（概要）

＜医学科＞

医学部医学科は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

求める人材像

学んで身につけた知識を統合して課題に迫る実践力、課題に対する自らの考えを多角的に導き出す探究力、自らの疑問や興味、考えを多様な方法で分かり易く表現できる力、自然や社会に関する高い水準の知識・語学力、学びそのものに興味を持ち、工夫・創造することができる力を身につけている人材を広く求めます。

求める力

【実践力】

学んで身につけた知識を統合して課題に迫ることができる。

【探究力】

課題に対する自らの考えを多角的に導き出すことができる。

【コミュニケーション力】

自らの疑問や興味、考えを多様な方法で分かり易く表現できる。

【専門力】

自然や社会に関する高い水準の知識・語学力を備えている。

【教養力】

学びそのものに興味を持ち、工夫・創造することができる。

＜保健学科＞

医学部保健学科は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

求める人材像

チームの一員として課題に積極的に取り組むことができる実践力、課題に対して多角的な視点で検討することができる探究力、他者との違いを理解し、自らの考えを多様な方法で分かり易く表現できるコミュニケーション力、自然科学や社会に関する基礎的知識があり、それらを応用できる力、人間性を高めるために多様な課題に対して好奇心を持って学び続けることができる力を身に付けている人材を広く求めます。

求める力 【実践力】 チームの一員として課題に積極的に取り組むことができる。 【探究力】 課題に対して多角的な視点で検討することができる。 【コミュニケーション力】 他者との違いを理解し、自らの考えを多様な方法で分かり易く表現できる。 【専門力】 自然科学や社会に関する基礎的知識があり、それらを応用できる。 【教養力】 人間性を高めるために多様な課題に対して好奇心を持って学び続けることができる。
--

学部等名 歯学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
（概要） 本学部は、広く知識を授け、深く歯学の学識・技能の教授、研究を行い、高い人格を備えた応用能力豊かな有為な人材の育成を図り、もって人類の福祉及び世界文化の進展に寄与することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-den.pdf ）
（概要） 歯学部は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。 修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力 【実践力】多様な場面で活躍し、チームを牽引する力 歯科医学を基盤に、幅広い領域で活躍することができる。 【探究力】科学的素養を生かし、探求を続ける力 科学的素養を基盤に、課題の発見と解決に努め、自己研鑽を続けることができる。 【コミュニケーション力】情報収集能力と発信能力を有し、良好な人間関係を構築する力 歯科医学における諸課題について、自発的に情報収集・分析し、成果を効果的に発信できることに加え、周囲との良好な人間関係を構築できる。 【専門力】進歩する歯科医学に即応する力 医療に対する社会の要請と歯科医学の進歩に、身につけた専門的知識と技能、態度で速やかに対応し、高度な医療福祉の担い手となることができる。 【教養力】多面的・多角的視野を持ち、継続して学ぶ力 自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、その問題解決のため、高い倫理観を持って学び続けることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-den.pdf ）

(概要)

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、歯学部として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

歯学部の教育は6年一貫の授業プログラムで行われ、歯科医師国家試験に合格するだけでなく、歯学部ディグリー・ポリシーに掲げる学士力を備え、世界の多様な課題に取り組むことのできる医療人、研究者育成のために、特色あるカリキュラムを策定し、実施します。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

自身が学ぶ専門領域とその関連領域にとどまらず、幅広い学識を有するため、また、保健医療福祉領域では必須とされる多職種協働に向けた「多職種連携に関する科目」を提供します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

歯学教育モデル・コア・カリキュラムを基本とし、歯科医師になるために必要な知識・技能・態度を修得するための臨床系専門教育科目と、その礎となる基礎系専門教育科目を設定しています。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

1、2年次では、聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な英語、異文化理解の科目群を通じて言語を学ぶ初修外国語、留学生には日本語、それぞれを学ぶ機会を提供します。3年次には、選択必修科目「歯学国際交流演習(ODAPUS)」として、海外大学へ聴講生(Auditor)として参加できる科目を提供しています。加えて、正課のみならず正課外においても言語を学ぶ機会を創出します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

①自身の可能性を主体的に広げる教育方法を展開します。

人が交わる共通教育、知が交わる専門教育、言葉が交わる言語教育を通して他者を理解し、切磋琢磨しながら、自身の可能性を広げる教育方法を実施します。

②総合大学の特長を活かした教育体系を提供します。

自らの専門を尊重しながらも、様々な専門との出会いにより、共に考え、共に動き、共に創り、共に育む教育体系を展開します。

③学生の成長に応じた実践的な教育プログラムを提供します。

学外実習や留学等、地域や世界とつながった学びを提供します。

④教育内容に合わせた適切な授業形式を提供します。

授業への積極的な参加を促すため、一部でアクティブラーニングの手法を取り入れるとともに、対面での講義・演習・実習、オンライン講義など、科目の目的に応じて様々な授業形式を展開します。

学修評価の考え方

授業科目の成績評価については、その基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学習成果を評価します。

それぞれの科目の評価は、科目の目的、身につく能力を的確に測定できるように多様な方法で行われます。すなわち、学士力の基盤となる知識の評価は試験やレポートで、点数化の難しいパフォーマンスや態度の評価には、ルーブリック評価やピア評価、360 度評価等も加えて総合的に行います。

講義科目では主に総括的評価を、演習科目では主に形成的評価を重視します。評価は主に、A+・A・B・C・F 評価で実施し、到達目標の概ね達成の基準 C を設定しています。各科目の評価方法はシラバス等により履修者に示します。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-den.pdf）

（概要）

歯学部は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

求める人材像

歯学部では、歯科医師として国民の健康、福祉・介護に興味を持ち、歯科医学の発展と地域医療、さらには国際医療に貢献したいという明瞭な目的意識を持つ、以下の人材を求めています。

求める力

【実践力】

何事にも興味を持ち、意欲的に取り組むことができる。

【探究力】

生命科学・健康科学に強い好奇心と知的探究心を持っている。

【コミュニケーション力】

思いやりと高い倫理観を備え、他者への理解と自己表現ができる。

【専門力】

進歩する歯科医学に対応するために必要な基礎学力を持っている。

【教養力】

知的好奇心が旺盛で、学びを継続することができる。

学部等名 薬学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html>）

（概要）

本学部は、薬学に関する基礎及び応用の科学並びに技術を修得させ、薬学に関連する社会的使命を正しく遂行し得る人材を養成するとともに、薬学に関し深く研究を遂行し、社会の発展に寄与することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-pha.pdf）

（概要）

<薬学科>

薬学部薬学科は、人体に影響する物質を、探し調べた知識体系を通じ、医療で活用できる人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】課題を理解し、自ら進んで解決に挑む実践力

薬学や関連分野における身近で多様な課題を解決するために、能動的に挑戦できる

【探究力】課題を自ら見出し、解決策を考案できる探究力

自発的な疑問に多面的な検討を加え、薬学や関連分野における課題とその解決策を発見できる

【コミュニケーション力】共有・議論できるコミュニケーション力

人との共感的態度を持ち、研究背景や得られた成果を集団の中で共有・議論できる

【専門力】薬学に関する基礎的かつ体系的な専門力

薬学や関連分野の研究の遂行に必要な、基礎的かつ体系的な専門知識と技能を身につけている

【教養力】自然や社会に関する多様な問題に対して好奇心を持ち、生涯にわたり学び続けることができる教養力

自然や社会に関する多様な問題に対して、好奇心を持って学び続けることができる

<創薬科学科>

薬学部創薬科学科は、人体に影響する物質を、新たに、探し、調べ、活用する方法を考案していける人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】課題を理解し、自ら進んで解決に挑む実践力

創薬科学に関する身近で多様な課題を解決するために、能動的に挑戦できる

【探究力】課題を自ら見出し、解決策を考案できる探究力

自発的な疑問に多面的な検討を加え、創薬科学に関する課題とその解決策を発見できる

【コミュニケーション力】共有・議論できるコミュニケーション力

人との共感的態度を持ち、研究背景や得られた成果を集団の中で共有・議論できる

【専門力】薬学に関する基礎的かつ体系的な専門力

創薬科学研究の遂行に必要な、基礎的かつ体系的な専門知識と技能を身につけている

【教養力】自然や社会に関する多様な問題に対して好奇心を持ち、生涯にわたり学び続けることができる教養力

自然や社会に関する多様な問題に対して、好奇心を持って学び続けることができる

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-pha.pdf）

(概要)

＜薬学科＞

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、薬学部薬学科として以下の方針及び考え方に基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

薬学部薬学科では、本学部ディグリー・ポリシーに掲げる5つの力（実践力、探究力、コミュニケーション力、専門力、教養力）を備え世界の多様な課題に取り組み、人類社会の持続的・恒久的な発展に貢献できる人材を育成するため、全学共通科目、英語科目、専門教育科目で構成される体系的なカリキュラムを提供しています。

【5つの力との対応】

「課題を理解し、自ら進んで解決に挑む実践力」を培うために、基礎・応用科目を基盤とする臨床系科目と実践能力を培う実務実習を提供します。

「課題を自ら見出し、解決策を考案できる探究力」を培うために、合目的に広範な情報を収集し、的確に分析・精選した情報を活用できる演習・実習関連科目、未知の課題に取り組む卒業研究を提供します。

「共有・議論できるコミュニケーション力」を育成するために、共感的態度やコミュニケーション能力を培う早期体験科目と言語教育科目、及びこれらを礎に他者との関わり方を学ぶ実習関連科目、研究成果の議論の仕方を学ぶ卒業研究を提供します。

「薬学に関する基礎的かつ体系的な専門力」を修得するために、物理・化学・生物系の基礎科目と実習関連科目、基礎科目に関連付けた衛生系、薬理・薬剤系の応用科目と実習関連科目を提供します。

「自然や社会に関する多様な問題に対して好奇心を持ち、生涯にわたり学び続けることができる教養力」を涵養するために、全学共通科目や全学交流科目を提供します。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。自分の考えと異なる人との対話や協働を進めるために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。自身の考え方を豊かにする異分野の知識や技能、自身の専門を築いていく体系的かつ基礎的な専門知識及び技能を、学生同士が切磋琢磨することにより身につけるカリキュラムを提供します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な英語、異分野化理解の科目群を通じて言語を学ぶ初修外国語、留学生には日本語、それぞれを学ぶ機会を提供します。加えて、正課のみならず正課外においても言語を学ぶ機会を提供します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

①【共通教育】 1年次には、全学共通科目と全学交流科目を学びます。

②【専門教育】 1年次には、専門基礎科目、および物理化学、分析化学、有機化学、生物化学などの専門科目を学びます。2年次以降では、それらと有機的に関連付けた、衛生系、薬理・薬剤系の応用科目が設定されています。3年次・4年次・5年次では、臨床に関わる専門教育科目と卒業研究のための準備教育科目を学び、6年次では、配属された研究室での卒業研究を中心とした密度の濃い専門教育科目を学びます。講義科目と実験科目の連携により、観察－仮説－実証－報告という薬学研究に共通する方法論を身につけるための授業が提供されています。また、これらの授業の中には、発表や議論する機会が設けられているものも多数あり、情報処理能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、共感力、国際性などが身につきます。最先端の科学を自ら実施することで、社会の要請に応える専門知識と実践的技術を獲得できる内容になっています。

③【言語教育】 1年次、2年次では、英語科目を学びます。3年次以降は、専門教育科目として専門分野に関連した英語科目が設定されています。

学修評価の考え方

各科目の学修成果は、定期試験、レポート、発表、授業態度などで評価することとし、その方法はシラバスに、基準及び達成すべき水準は学部学生便覧にそれぞれ明示されています。また、プログラムレベルの学修評価については、別紙3に定めるアセスメントプランに従って実施します。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

<創薬科学科>

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、薬学部創薬科学科として以下の方針及び考え方に基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

薬学部創薬科学科では、本学部ディグリー・ポリシーに掲げる5つの力（実践力、探究力、コミュニケーション力、専門力、教養力）を備え世界の多様な課題に取り組み、人類社会の持続的・恒久的な発展に貢献できる人材を育成するため、全学共通科目、英語科目、専門教育科目で構成される体系的なカリキュラムを提供しています。

【5つの力との対応】

「課題を理解し、自ら進んで解決に挑む実践力」を培うために、合目的に広範な情報を収集し、的確に分析・精選した情報を活用できる演習・実習関連科目を提供します。

「課題を自ら見出し、解決策を考案できる探究力」を培うために、未知の課題に取り組む卒業研究実習を提供します。

「共有・議論できるコミュニケーション力」を育成するために、共感的態度やコミュニケーション能力を培う早期体験科目と言語教育科目、及び研究成果の議論の仕方を学ぶ卒業研究実習を提供します。

「薬学に関する基礎的かつ体系的な専門力」を修得するために、物理・化学・生物系の基礎科目と実習関連科目、基礎科目に関連付けた衛生系、薬理・薬剤系の応用科目と実習関連科目を提供します。

「自然や社会に関する多様な問題に対して好奇心を持ち、生涯にわたり学び続けることができる教養力」を涵養するために、全学共通科目や全学交流科目を提供します。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。自分の考えと異なる人との対話や協働を進めるために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。自身の考え方を豊かにする異分野の知識や技能、自身の専門を築いていく体系的かつ基礎的な専門知識及び技能を、学生同士が切磋琢磨することにより身につけるカリキュラムを提供します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な英語、異分野化理解の科目群を通じて言語を学ぶ初修外国語、留学生には日本語、それぞれを学ぶ機会を提供します。加えて、正課のみならず正課外においても言語を学ぶ機会を提供します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

- ①【共通教育】 1年次には、全学共通科目と全学交流科目を学びます。
- ②【専門教育】 1年次には、専門基礎科目、および物理化学、分析化学、有機化学、生物化学などの専門科目を学びます。2年次以降では、それらと有機的に関連付けた、衛生系、薬理・薬剤系の応用科目が設定されています。3年次には、実験の基礎を修得するための実験科目と配属された研究室での卒業研究のための準備教育科目を学びます。4年次では、卒業研究を中心とした密度の濃い専門教育を提供しています。講義科目と実験科目の連携により、観察－仮説－実証－報告という薬学研究に共通する方法論を身につけるための授業が提供されています。また、これらの授業の中には、発表や議論する機会が設けられているものも多数あり、情報処理能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、共感力、国際性などが身につきます。最先端の科学を自ら実施することで、社会の要請に応える専門知識と実践的技術を獲得できる内容になっています。
- ③【言語教育】 1年次、2年次では、英語科目を学びます。3年次以降は、専門教育科目として専門分野に関連した英語科目が設定されています。

学修評価の考え方

各科目の学修成果は、定期試験、レポート、発表、授業態度などで評価することとし、その方法はシラバスに、基準及び達成すべき水準は学部学生便覧にそれぞれ明示されています。また、プログラムレベルの学修評価については、別紙4に定めるアセスメントプランに従って実施する。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

(概要) 薬学部は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。 求める人材像 1. 優れた倫理観を有し、研究心・探究心を持ち続け、高度な知識と最先端の技術および他者と共感・協働できるコミュニケーション力を身につけた薬剤師あるいは創薬研究者として活躍したいと考えている人 2. 大学院博士課程・博士後期課程に進学し、将来の薬学あるいは創薬科学関連分野を担う研究者や教育者を目指したいと考えている人 3. 専門分野に関連する科目への高い理解度と応用能力が期待できる人 4. 高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力と教養を有する人 求める力 【実践力】 身につけた知識を利用して、課題解決に挑戦できる。 【探究力】 課題を明らかにしようと自ら取り組むことができる。 【コミュニケーション力】 自らの疑問や考えを分かりやすく表現でき、他者と協働できる。 【専門力】 自然や生命に関する基礎的な知識を備えている。 【教養力】 学ぶことに興味を持ち、学びを継続することができる。

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
(概要) 本学部は、幅広い視野をもち、社会課題を発見・把握し、主体的に解決できる創造的な工学系人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-eng.pdf ）
(概要) 工学部は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。 修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力 【実践力】工学分野の知識・技能を活用し、課題解決に主体的に挑む実践力 工学を支える自然科学系基礎知識に加え高度な専門知識や最先端の技術を活用し、困難な課題に対しても解決に向けて自らの責任のもとで行動することができる。 【探究力】自ら収集した情報を論理的に整理し、客観的に分析することで課題を抽出する探究力 先端的な工学の発展を担うために、必要な情報を自ら収集するとともに、論理的に整理し、客観的に分析することによって、課題を的確に見つけ出すことができる。 【コミュニケーション力】多様な人々と連携・協働し、課題解決に取り組むコミュニケーション力 学際的・国際的な協力を行うために必要な、多様な分野の人々との円滑な相互理解を実現するために、他者の意見を正確に理解するとともに、事実を客観的に説明し、自らの意

見を論理的に構築し表現することができる。

【専門力】課題解決に必要な工学分野の知識・技能を適切に選択し、解決策を構築する専門力

工学分野の基礎知識に基づいて課題を的確に理解し、課題解決に必要な専門知識や最先端の技術を適切に選択することで、課題解決までのプロセスを構築し提案することができる。

【教養力】工学分野のみならず幅広い分野について自律的に学習し、継続的に自己を高める力（教養力）

世界に横たわる複合的な諸問題を多角的に捉えるとともに多面的に理解することができるよう、分野横断的な知識を自発的・主体的に習得するとともに、知識をアップデートするために継続して学習することができる。

本学部の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて、各コースにおける卒業認定・学位授与の方針の考え方は以下のとおりです。

<機械システム系>

【機械工学コース】

工学部工学科機械システム系機械工学コースでは、機械工学分野の技術者としての知識と能力を身につけた学生に、学士（工学）の学位を授与します。その知識と能力には、多面的に考える素養と能力、技術者・研究者倫理、数学および情報・数理データサイエンスなどに関する工学系人材としての基礎知識の活用能力、機械工学についての基礎知識、機械の設計・開発・製造に応用する機械システムの基礎知識と応用能力、機械工学の専門知識と応用能力を修得し、それらを基に社会課題を発見し解決する能力、論理的な記述力、口頭発表力、討議力等のコミュニケーション能力、仕事の立案遂行および総括能力が含まれます。

【ロボティクス・知能システムコース】

工学部工学科機械システム系ロボティクス・知能システムコースでは、ロボティクス・知能システム分野の技術者・研究者としての知識と能力を身につけた人に学士（工学）の学位を授与します。その知識と能力には、工学の基礎となる数学、情報・数理データサイエンス、力学などに関する知識、機械システムの基礎となる材料力学、流体力学、制御などに関する知識と機械の設計・開発・運用に応用する能力、ロボティクス・知能システム分野の人材に求められるロボティクス・メカトロニクス、知能システム、制御、最適化などのシステム工学に関する専門知識と応用能力、および、それらを基に自ら課題を発見し解決する能力が含まれます。

<環境・社会基盤系>

【都市環境創成コース】

工学部工学科環境・社会基盤系都市環境創成コースは、土木工学及び建築工学分野の技術者としての知識と能力を身につけた学生に、学士（工学）の学位を授与します。その知識と能力には、専門性として、新しい時代に相応しい持続可能な都市環境を実現するために必要な、新たな視点からの技術開発、それらを実装する土木・建築構造物の設計ならびに施工、それら構造物そのものあるいは再構築過程において周辺環境に及ぼす影響の評価、自然災害からのリスク低減、質の高いインフラ整備、文化的・創造的で発展的な社会構築等の土木・建築に関する知識と応用能力が含まれます。

【環境マネジメントコース】

工学部工学科環境・社会基盤系環境マネジメントコースは、これからの社会基盤整備において不可欠となる農業農村工学および環境工学分野の知識と能力を身につけた学生に、学士（工学）の学位を授与します。その知識と能力には、持続可能な開発目標（SDGs）に

掲げられている多様性と包摂性のある社会の実現のために多面的に考える素養と能力、技術者としての倫理能力、工学系人材としての基礎知識の活用能力、技術的専門知識と社会課題の発見・解決能力、社会課題解決のための情報収集・分析・発信能力、コミュニケーション能力、仕事の立案遂行及び総括能力、生涯に亘る学習能力が含まれます。

＜情報・電気・数理データサイエンス系＞

【情報工学コース】

工学部工学科情報・電気・数理データサイエンス系情報工学コースは、高度情報化社会の基盤を支えるのに必要不可欠な情報工学分野の知識と能力を身につけた学生に、学士（工学）の学位を授与します。その知識と能力には、多面的に考える素養と能力、技術者・研究者倫理、数学、自然科学、工学、及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力、プログラミング言語、情報処理システム、コンピュータのハードウェア・ソフトウェア、知能情報処理技術、画像・音声・自然言語等データの処理技術と人工知能に関する基盤技術を理解し、それらをコンピュータ上に実装する能力が含まれます。

【ネットワーク工学コース】

工学部工学科情報・電気・数理データサイエンス系ネットワーク工学コースは、ネットワーク工学分野の技術者としての知識と能力を身につけた学生に、学士（工学）の学位を授与します。その知識と能力には、数学、自然科学、工学、及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力、電気工学、電子工学、通信工学及びネットワーク工学とその関連領域の基礎知識を修得して、これらの知識に基づき社会課題を発見・把握する能力、さらにネットワーク工学分野における高度専門知識を修得して、これらに基づき社会課題を解決するためのプロセスをデザインする能力が含まれます。

【エネルギー・エレクトロニクスコース】

工学部工学科エネルギー・エレクトロニクスコースでは、電気・電子工学分野における高度専門知識を取得し、社会課題を解決するためのプロセスをデザインする能力を身につけた学生に、学士（工学）を授与します。その知識と能力には、工学系の基礎となる数学、自然科学、情報・数理データサイエンスに関する基礎知識と活用能力、電気・電子工学とその関連領域の基礎知識となる電磁気学、回路学、制御学、材料工学および電気・電子工学の専門知識と応用能力、それらを基に社会課題を発見し解決する能力が含まれます。

【数理データサイエンスコース】

数理データサイエンスコースでは、数理科学・データサイエンスに関する知識や、それを活用する能力を身につけた学生に、学士（工学）の学位を授与します。その能力には、データサイエンスの基礎となる数理科学の方法と理論とその活用能力、プログラミング、数値計算法、モデリング、シミュレーション、可視化などのデータサイエンスを強化する計算科学の方法と理論とその活用能力、統計学や機械学習、データの収集・管理・解析など、データサイエンスの中心となる諸種の方法と理論とその活用能力が含まれます。

＜化学・生命系＞

【応用化学コース】

工学部工学科化学・生命系応用化学コースでは、分子や機能材料の創造、生産を通じて工業社会を支え、化学の力でエネルギー問題や地球環境問題などの解決に重要な役割を果たすために、化学・生命工学の専門基礎知識を修得し、それらを問題解決に応用する能力を身につけた学生に学士（工学）の学位を授与します。その知識と能力には、物理化学、無機化学、有機化学及び生化学とその関連領域に関する基礎知識及びその応用能力、化学・生命系の専門分野に関連する社会課題を発見・把握し的確に理解する能力、それらを基に課題解決のための新しい化学技術を創出する能力が含まれます。

【生命化学コース】

工学部工学科化学・生命系生命工学コースでは、遺伝子（DNA）、RNA、タンパク質、細胞、

生物個体の研究や、人工的な新機能生体分子・生体材料の開発を通じて、健康と医療、食料、エネルギー、地球環境などの問題の解決に重要な役割を果たすために、化学・生命工学の専門知識を修得し、それらを問題解決に応用する能力を身につけた学生に、学士（工学）の学位を授与します。その知識と能力には、物理化学、無機化学、有機化学及び生化学とその関連領域に関する基礎知識及びその応用能力、化学・生命系の専門分野に関連する社会課題を発見・把握し的確に理解する能力、それらを基に課題解決のための新しいバイオテクノロジー技術を創出する能力が含まれます。

<情報工学先進コース>

工学部工学科情報工学先進コースは、高度情報化社会の基盤を支えるのに必要不可欠な情報知能工学分野の知識と能力に加え、実践型科目を通して実践力やチームワーク力を身につけた学生に、学士（工学）の学位を授与します。その知識と能力には、多面的に考える素養と能力、技術者・研究者倫理、数学、自然科学、工学、及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力、プログラミング言語、情報処理システム、コンピュータのハードウェア・ソフトウェア、知能情報処理技術、画像・音声・自然言語等データの処理技術と人工知能に関する基盤技術を実務的観点から理解し、それらをコンピュータ上に実装する能力が含まれます。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-eng.pdf）

（概要）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、工学部として以下の方針及び考え方に基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。特に、工学分野の知識・技能を活用し、課題解決に主体的に挑む実践力、自ら収集した情報を論理的に整理し、客観的に分析することで課題を抽出する探究力、多様な人々と連携・協働し、課題解決に取り組むコミュニケーション力、課題解決に必要な工学分野の知識・技能を適切に選択し、解決策を構築する専門力、さらに、工学分野のみならず幅広い分野について自律的に学習し、継続的に自己を高める力（教養力）の育成を目指します。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

自身の考えと異なる人との対話や協働を進めるために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

自身の考え方を豊かにする異分野の知識や技能、自身の専門を築いていく体系的かつ基礎的な専門知識及び技能、及び、将来の社会課題の発見と解決に繋げられる実践力を身につけるカリキュラムを提供します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な英語、異文化理解の科目群を通じて言語を学ぶ初修外国語、留学生には日本語、それぞれを学ぶ機会を提供します。加えて、正課のみならず正課外においても言語を学ぶ機会を創出します。高年次では、自身の専門を学ぶ上で必要となる英語力を高める教育を提供します。

教育方法の考え方

教育方法の考え方：前述の教育内容を以下の方法で提供します。

1. 自身の可能性を主体的に広げる教育方法を展開します。
人が交わる共通教育、知が交わる専門教育、言葉が交わる言語教育を通して他者を理解し、切磋琢磨しながら、自身の可能性を広げる教育方法を実施します。
2. 工学部工学科という1学科の特長を活かした教育体系を提供します。
自身の専門を築く前の1年次に履修する自然科学系の専門基礎科目では、系・コースの枠組みを超えた学習機会を提供します。また、Society5.0の実現につながる情報・数理データサイエンスに関する専門基礎科目も提供します。
3. 自身の専門を築く教育プログラムを段階的に提供します。
2年次からコースに分かれて、専門を築くための専門教育科目を本格的に提供します（情報工学先進コースは入学時にコースが決定しています）。最初は系科目から、段階的に専門性の高いコース科目を提供します。他コースのコース科目を履修することも可能です。3年次後半あるいは4年次には教育研究分野（研究室）に配属され、実践的な課題解決に取り組みます。

学修評価の考え方

授業科目の成績評価については、授業の形態（講義、演習、実習、実験等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などの評価方法をシラバス等に予め明示し、到達目標の達成度を踏まえて学修成果を評価します。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-eng.pdf）

（概要）

工学部は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

求める人材像

岡山大学が本学卒業時に求める実践力、探究力、コミュニケーション力、専門力、及び教養力の礎となる高い基礎学力を備えているとともに、工学部における学びに興味を持ち、目的を達成するために自ら継続的に努力できる人材を求めます。

工学部共通の上記の項目に加え、各系・コースで求める人材像は以下のとおりです。

<機械システム系>

ものが創り出される仕組みや方法に興味を持ち、新たな機械システムを開発しようとする意欲を持った人。

<環境・社会基盤系>

都市基盤の成り立ち、人間活動と環境との調和等に興味を持ち、自然科学を主体とした広範な学力を有し、ものづくりや持続可能な社会の実現に自ら行動しようとする意欲を持った人。

<情報・電気・数理データサイエンス系>

AI（人工知能）やIT（情報技術）、通信ネットワーク、エレクトロニクス、データサイエンス等に興味を持ち、科学や技術の発展と社会に貢献しようとする意欲を持った人。

＜化学・生命系＞

身の周りの素材やその作り方、生命現象に興味を持ち、化学や生命科学の知識と技術を使ってグローバルな視点から持続可能な社会の実現に貢献しようとする意欲を持った人。

＜情報工学先進コース＞

コンピュータやプログラミング、A I（人工知能）に興味を持ち、社会課題を解決するためにそれらを学ぶ高い意欲と岡山大学の大学院に進学する強い意思を持った人。

以上の工学部の求める人材像の考え方を受け、受験者に求める力は以下のとおりです。

求める力

【実践力】

数学や理科の知識・技能を活用し、工学分野の課題解決に主体的に挑むことができる。

【探究力】

自ら収集した情報を論理的に整理し、客観的に分析し、課題を抽出することができる。

【コミュニケーション力】

多様な人々と連携・協働し、課題解決に取り組むことができる。

【専門力】

課題解決に必要な知識・技能を適切に選択し、課題解決の道筋を見出すことができる。

【教養力】

幅広い分野について自律的に学習し、継続的に自己を高めることができる。

学部等名 環境理工学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/R2.html>）

（概要）

本学部は、広く環境理工学に関する知識を授け、深く専門の学芸を教授研究して、知的、道徳的、創造的及び応用的能力を有する人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/kikaku-pdf/binran/2020/01_a/10.pdf）

（概要）

環境理工学部は、地球規模で拡大する環境問題に対処し、持続可能な社会を構築するため、学際的な幅広い知識を身につけ、自然と人間が調和した豊かで快適な環境を創造する能力を持つ人材の養成を行っている。

この理念に基づく環境理工学部ディプロマポリシーは、学生が本学部を卒業するにあたって以下の学士力を習得したことを保証するものである。

人間性と洞察力に富む幅広い教養 【教養】

人間社会と自然界の調和などの多様な問題に対して関心を持ち、問題解決に向けての論理的思考力・判断力、今までの考え方・手法にとらわれない創造力を有し、人間性や倫理観に裏打ちされた学際的な教養を身につけている。

幅広い知識に支えられた深い専門性 【専門性】

専門分野の知識・技術などを身につけ、さらに専門の枠を越えた広範な科目を修得し、それによって多面的な観点から環境問題に取り組むことができる。

問題解決のための情報収集・発信能力 【情報力】

環境問題を広く、そして深く考える視点に立ち、必要に応じて自ら情報を収集・分析し、それを問題解決に活かす能力を有するとともに、効果的に情報発信することができる。

コミュニケーション能力とそれを活かした行動力 【行動力とコミュニケーション能力】 国際感覚や外国語能力と共に、様々な専門分野との学際的協力が行えるコミュニケーション能力を有し、地球規模から地域社会に至る環境問題などの解決のために的確に行動できる。 生涯に亘って学習し向上する能力 【生涯学習能力と自己実現力】 自立した個人として日々を享受する姿勢を一層高め、生涯に亘って自主的、継続的に学習を続け、持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己の成長を追求できる。 教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.engr.okayama-u.ac.jp/eng_wp/wp-content/uploads/2024/06/%E7%92%B0%E5%A2%83%E7%90%86%E5%B7%A5%E5%AD%A6%E9%83%A8%E3%83%9D%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%83%BC.pdf）
（概要） 環境理工学部は、環境数理学科、環境デザイン工学科、環境管理工学科、環境物質工学科の4学科から構成されています。本学部では、地球規模で拡大する環境問題に対処し、持続可能な社会を構築するため、学際的な幅広い知識を身につけ、自然と人間が調和した豊かで快適な環境の創造に貢献する人材の養成を目的としています。このため、本学部ディプロマポリシーに掲げた学士力（人間性と洞察力に富む幅広い教養、幅広い知識に支えられた深い専門性、問題解決のための情報収集・発信能力、コミュニケーション能力とそれを活かした行動力、生涯に亘って学習し向上する能力）を修得することができる体系的なカリキュラムを編成しています。 環境学の基礎を学ぶために、1, 2 年次に履修する学部共通の専門基礎科目の中に環境科学系科目を設けています。専門科目では、各学科の専門領域の根幹をなす理論と技術に重点を置き、1 年次から年次が進むにしたがい専門性を高め、教育の量と幅を広げています。4 年次の卒業研究では、ゼミナールを重要視し、新しい発想を生み出し、発展させるための素養の醸成、得られた成果を効果的に情報発信するための技術の修得を目指します。このように、本学部では、教養教育、外国語教育、基礎科学系および環境科学系専門基礎教育、専門教育を有機的に結び付けた4年一貫的教育プログラムを提供しています。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：2021 年度から募集停止のため公表していない）
（概要） 教育内容・特色 本学部では、地球規模で拡大する環境問題に対処し、持続可能な社会の構築に貢献することのできる人材を育成しています。このために、1, 2 年次に履修する学部共通の専門基礎科目の中に環境科学系科目を設け、環境学の基礎を学びます。専門科目では、各学科の専門領域の根幹をなす理論と技術に重点を置き、1 年次から年次が進むにしたがい専門性を高め、教育の質と幅を広げています。4 年次の卒業研究では、ゼミナールを重要視し、新しい発想を生み出し、発展させるための素養を醸成するとともに、得られた成果を効果的に情報発信するための技術を学びます。これらの学習を通して修得した学際的な幅広い知識にもとづいて、自然と人間が調和した豊かで快適な環境を創造する能力の発展・向上を目指します。 求める人材 人間社会や自然界を取り巻く環境問題に対して強い関心があり、持続可能な社会の構築に貢献したいと考えている人 1. 環境問題解決のために必要な専門知識や技術を修得し、問題解決に主体的に取り組む意欲をもっている人 2. 他者と積極的にコミュニケーションを図ることができ、互いに協力しながら的確に行動できる人 3. 国際水準の英語力を身につけ、グローバルに活躍したいと考えている人 4. 高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力をもつとともに、環境理工学部における学習に関連する科目（数学、理科、英語）に関する理解力と論理的思考による応用力を備えている人

学部等名 農学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html ）
（概要） 本学部は、農学の分野において、総合的な教育研究を行い、多様化する社会の要請に応えるとともに、幅広い基礎学力と応用展開能力を備えた人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-agr.pdf ）
（概要） 農学部は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。 修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力 【実践力】自ら課題を見いだし、解決に取り組む実践力 農学部の教育がカバーする身近な課題からグローバルな課題まで、現状を必ずしも良しとせず、持続可能な地球共生系の実現に向けて自らの実践力を発揮できる。 【探究力】教養力・専門力を基盤とした課題を見いだす探究力 現状から一歩先へ進むために必要不可欠と考えられる課題を自発的かつ多面的に調査・検討に行い、見い出すことができる。 【コミュニケーション力】課題探究過程において幅広い領域の他者とディスカッションするコミュニケーション力 多様な人々との交流に関心をもち、自分の考えや意見を的確に伝えるとともに、他者の考えや意見を聞いて理解することにより、より良い方策を見出すことができる。 【専門力】5つのプログラムそれぞれにおける基礎的かつ体系的な専門力 5つのプログラムそれぞれにおいて体系的に修得した基礎的な知識・技能を得用することができる。 【教養力】農学が関わる地球・人類を含む全ての分野への関心とそれらを学ぶ姿勢をもつ教養力 身近な「食」や「環境」に関するテーマからグローバルな地球共生系のテーマも含めて幅広い分野に関心を持ち、学び続けることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-agr.pdf ）
（概要） 卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、農学部として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。 教育の実施方針 地球共生系の実現に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。 教育内容の考え方 主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成のための教育に加え、農学学士にふさわしい「教養力」を養うために、地球共生系を目指す上で不可欠な概論講義を提供します。具体的には、全学共通科目と並行して、「農学入門」「農学概論」「日本農業論」などにより、農学の全容を理解し、持続的社会的実現のための多様な問題に対して関心を持つ農学的姿勢を育成します。

講義だけにとどまらず、実際の農業生産等の体験と協働を実習科目として提供します。

また、本学だけでは実施困難な体験実習を他大学生との交流を交えて中四国単位互換制度によって提供します。

近年特に重要性の高まった数理・データサイエンスに関しても1年次に基礎科目として必修科目で提供します。

【専門教育】

1年次に農学部専門基礎科目、2年次にプログラム専門領域基礎科目、3年次に卒業論文教育ユニット専門科目、4年次に卒業論文研究と基礎から最新の専門科目まで体系的に学習機会を提供します。

各プログラムおよび教育ユニットで、学習目標を明示した履修モデルを作成して、コアとなる授業科目を明確にしています。

各プログラムが提供する専門教育は以下のとおりです。

【生物生産プログラム】

生物生産プログラムでは、農産物とその生産システムを深く理解していくために、生物学・工学・経済学と情報技術を融合した多様な視点からの課題解決に取り組む力を学び・身につける教育を提供します。

【農芸化学プログラム】

農芸化学プログラムでは、様々な生物を対象として、代謝産物、糖鎖、脂質、タンパク質、核酸などを分子レベルで学び、細胞内外で行われる生命現象を化学の視点で解明し、食品や医薬品の開発から環境保全に至るまで幅広く応用する手法を学び・身につける教育を提供します。

【植物科学プログラム】

植物科学プログラムでは、増え続ける世界の人口や気候変動や病害に対応するために、分子・遺伝子・染色体・個体といった様々な視点から、作物の生産性を安定的に向上させる品種改良や生産・品質管理について学び・身につける教育を提供します。

【動物科学プログラム】

動物科学プログラムでは、動物の繁殖・成長・疾病管理・健康維持に関わる生命現象や諸機能を理解する力を涵養し、安全かつ効率的な動物・畜産食品生産技術の開発、さらには人の健康・医療支援も含めた動物生命科学領域全般の発展に寄与する基礎と応用を学び・身につける教育を提供します。

【環境科学プログラム】

環境科学プログラムでは、森林、草原、河川、農地などの生物群集や生態系の構造と機能、生物多様性の創出と維持機構、さらには農村・環境政策、環境とビジネスのつながりなど、ローカルからグローバルまで、さまざまなスケールの環境と人間の関係について学び・身につける教育を提供します。

基礎的な概論講義を経て、実験・実習を加え徐々に専門性を高めて提供することで体系的に知識・技能・技術を身につけ、高度専門家としても通用する「専門力」を磨くだけでなく、協働やコミュニケーションの機会も増加するカリキュラムを提供します。

数理・データサイエンスは専門教育の中では必須であり、演習・実習・実験および卒業論文研究の中で専門性に応じた内容で提供します。

1年次から3年次までの各種の実践型講義、実験、実習、演習および4年次の卒業論文

研究では、農学部で修得した知識と経験をもとに「探究力」を磨き、生涯に亘って学習意欲を持ち続け、実社会で農業の進歩に寄与できる「実践力」を習得します。

【言語教育】

グローバル社会での活躍のため、また、農学部に進学する多様な国や地域からの留学生との交流のために、共通言語としての英語力とコミュニケーション力を伸ばす機会を積極的に提供します。

留学生および日本人を含む GDP 生を対象とした英語講義を提供します。また、3 年次以降の卒業論文教育ユニットでは、研究上のコミュニケーションにおける共通言語である英語の「聞く力」、「読む力」、「話す力」、「書く力」を伸ばすための機会をより積極的に提供します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

- ①自身の可能性を主体的に広げる教育方法を展開します。
人が交わる共通教育、知が交わる専門教育、言葉が交わる言語教育を通して他者を理解し、切磋琢磨しながら、自身の可能性を広げる教育方法を実施します。
- ②1 学科制とそれに続く 5 プログラム制の特長を活かした教育体系を提供します。1 年次で農学の幅広い基礎知識を修得し、自らの興味・適性を見極めた上で、2 年次から各プログラムへ分属して各プログラムの専門科目を履修し、「専門力」を習得します。4 年次では、農学学修の集大成である「卒業論文」のより高度な実践的研究経験を通して、主体的に学び、専門情報を論理的にまとめ表現・行動できる能力を涵養します。このように、自らの専門を尊重しながらも、様々な専門との出会いにより、共に考え、共に動き、共に創り、共に育む教育体系を全ての課程で展開します。
- ③学生の成長に応じた実践的な教育プログラムを提供します。
海外研修やインターンシップ、プラクティカム等、地域や世界とつながった実社会における学びを提供します。
- ④医学部保健学科及び農学部を横断して形成された教育組織による生殖補助医療キャリア養成コースにおいて、生殖補助医療を支える質の高い技術者を育てる体系的な教育を提供します。
- ⑤農学部独自の国際特別コースにおいて、国際貢献を目指す日本人学生とアジア諸国を中心とした留学生が、互いに競争・協力しながら成長するプログラムを提供します。

学修評価の考え方

授業科目の成績評価については、その基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を評価します。

正課外教育の考え方

学生が、授業での学びを越えて、自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-agr.pdf）

（概要）

農学部は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

求める人材像

高等学校等で履修した基礎的な知識を備え、論理的な思考とそれを的確に表現する力量をもつ人を求めます。農学部農学科は、生物生産、農芸化学、植物科学、動物科学、環境科学の 5 プログラムで組織されており、1 年次には全学共通科目と並行して農学とその関連分野を理解する専門基礎科目を履修します。2 年次から各プログラムに分属して専門科目を体系的かつ横断的に学び、卒業論文では専門分野の先端研究を主体的に行います。このカリキュラムで農学に関する幅広い基礎知識を修得し、専門的な学習を積み上げて技術者や研究者として活躍するという意欲ならびに目標をもつ人を求めます。多様化する社会

的要請に対応し、持続可能な社会の実現に貢献するため、地域、世界とのつながりに興味をもち、語学力、表現力を磨く意欲も求められます。

求める力

【実践力】

論理的に物事を考え、調べたことや考えたことを的確に表現できる。また、与えられた課題を責任をもって成し遂げ、達成困難な目標の実現に継続的に取り組むことができる。

【探究力】

自ら情報を収集し、科学に基づく理解と議論をすることができる。技術開発はもちろん社会や文化への関心、過去、現在、未来をつなぐ広い視野を有している。

【コミュニケーション力】

自分と異なる意見を尊重し、協調しながら物事に取り組む姿勢と力量を有する。言葉、文化の多様性と普遍性について関心や問題意識を持ち、地球規模、地域規模の様々な課題に取り組む意欲をもつ。

【専門力】

これまでの技術革新を継承しつつ、分野の枠を超えた知識と技術の修得、自らが発信者となって情報交換する意欲と向上心を兼ね備えている。新しい技術を積極的に取り入れて、これまでなかった領域にも挑戦できる。

【教養力】

生命現象の仕組みを理解するために必要な生物学、化学、物理学、数学等の基礎知識を備えるとともに、地域、世界、社会、文化等と自然環境の関わりについて、強い関心と問題意識を持っている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/sel.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
学術研究院教育学域		52 人	28 人	12 人	12 人		104 人
学術研究院社会文化科学学域		47 人	46 人	7 人	2 人	1 人	103 人
学術研究院環境生命自然科学学域		128 人	102 人	10 人	80 人	2 人	322 人
学術研究院保健学域		14 人	13 人	1 人	17 人	1 人	46 人
学術研究院医歯薬学域		84 人	61 人	31 人	134 人	2 人	312 人
学術研究院ヘルスシステム統合科学学域		18 人	11 人	2 人	15 人		46 人
学術研究院法務学域		13 人	1 人		1 人		15 人
学術研究院先鋭研究領域		47 人	45 人	5 人	49 人	1 人	147 人
学術研究院異分野融合教育研究領域		3 人	2 人		3 人		8 人
学術研究院共通教育・グローバル領域		19 人	33 人	11 人	1 人		64 人
学術研究院教育研究マネジメント領域		5 人	15 人		1 人		21 人
学術研究院医療開発領域		16 人	17 人	55 人	180 人		268 人
							1457 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
2 人		527 人					529 人
各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）		公表方法：https://soran.cc.okayama-u.ac.jp/search?m=home&l=ja					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
本学では、全学FD活動の一環として、毎年度「桃太郎フォーラム」を開催しており、教育技術の向上や教育改善をテーマに教員研修を実施している。また、他大学における先行事例の共有を目的とした教職員研修として、「大学教育リデザイン研究会」を令和3年度より実施し、令和7年度においては、9月と11月に開催した。さらに、各学部単位でも同様の取組を行っているほか、授業参観（ピアレビュー）等を実施し、教員間の意見交換の場を設けている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	175 人	179 人	102.3%	700 人	772 人	110.29%	人	人
教育学部	280 人	289 人	103.2%	1,120 人	1,201 人	107.23%	人	人
法学部	208 人	218 人	104.8%	883 人	991 人	112.23%	人	人
経済学部	210 人	210 人	100.0%	945 人	1,048 人	110.90%	人	人
理学部	140 人	148 人	105.7%	620 人	712 人	114.84%	30 人	26 人
医学部	268 人	267 人	99.6%	1,322 人	1,348 人	101.97%	5 人	5 人
歯学部	48 人	48 人	100.0%	313 人	318 人	101.60%	5 人	5 人
薬学部	80 人	87 人	108.8%	400 人	446 人	111.50%	人	人
工学部	640 人	657 人	102.7%	2,590 人	2,821 人	108.92%	30 人	32 人
環境理工学部				0 人	10 人		人	人
農学部	142 人	147 人	103.5%	502 人	550 人	109.56%	人	人
合計	2,191 人	2,250 人	102.7%	9,395 人	10,217 人	108.75%	70 人	68 人
(備考) 環境理工学部は令和3年度より学生募集停止した学部であり、修業年限を超えて在籍する学生のみが在籍する学部								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	176 人 (100%)	23 人 (13.1%)	140 人 (79.5%)	13 人 (7.4%)
教育学部	278 人 (100%)	37 人 (13.3%)	218 人 (78.4%)	23 人 (8.3%)
法学部	197 人 (100%)	24 人 (12.2%)	157 人 (79.7%)	16 人 (8.1%)
法学部 夜間主コース	15 人 (100%)	4 人 (26.7%)	7 人 (46.7%)	4 人 (26.6%)
経済学部	217 人 (100%)	9 人 (4.1%)	194 人 (89.4%)	14 人 (6.5%)
経済学部 夜間主コース	41 人 (100%)	0 人 (0.0%)	35 人 (85.4%)	6 人 (14.6%)
理学部	156 人 (100%)	105 人 (67.3%)	46 人 (29.5%)	5 人 (3.2%)
医学部 医学科	115 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	115 人 (100%)
医学部 保健学科	160 人 (100%)	27 人 (16.9%)	132 人 (82.5%)	1 人 (0.6%)
歯学部	51 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	51 人 (100%)
薬学部 薬学科	33 人 (100%)	3 人 (9.1%)	30 人 (90.9%)	0 人 (0.0%)
薬学部 創薬科学科	45 人 (100%)	37 人 (82.2%)	4 人 (8.9%)	4 人 (8.9%)

工学部	668 人 (100%)	477 人 (71.4%)	179 人 (26.8%)	12 人 (1.8%)
環境理工学部	3 人 (100%)	1 人 (33.4%)	1 人 (33.3%)	1 人 (33.3%)
農学部	130 人 (100%)	80 人 (61.6%)	48 人 (36.9%)	2 人 (1.5%)
合計	2,285 人 (100%)	827 人 (36.2%)	1,191 人 (52.1%)	267 人 (11.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【進学先】岡山大学大学院、東京大学大学院、京都大学大学院、大阪大学大学院、東京科学大学大学院				
【就職先】アクセンチュア(株)、(株)NTTドコモ、(株)オリエンタルランド、花王(株)、鹿島建設(株)、(株)JTB、住友化学(株)、武田薬品工業(株)、中国電力(株)、東京海上日動火災保険(株)、東レ(株)、トヨタ自動車(株)、日本銀行、日本航空(株)、(株)野村総合研究所、パナソニック(株)、(株)日立製作所、三菱重工業(株)、国家公務員、地方公務員、学校教員、岡山大学、岡山大学病院				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	185 人 (100%)	156 人 (84.3%)	26 人 (14.1%)	3 人 (1.6%)	0 人 (0.0%)
教育学部	275 人 (100%)	255 人 (92.7%)	14 人 (5.1%)	6 人 (2.2%)	0 人 (0.0%)
法学部	231 人 (100%)	200 人 (86.6%)	29 人 (12.6%)	2 人 (0.9%)	0 人 (0.0%)
経済学部	258 人 (100%)	220 人 (85.3%)	31 人 (12.0%)	7 人 (2.7%)	0 人 (0.0%)
理学部	144 人 (100%)	107 人 (74.3%)	30 人 (20.8%)	7 人 (4.9%)	0 人 (0.0%)
医学部	270 人 (100%)	255 人 (94.4%)	14 人 (5.2%)	1 人 (0.4%)	0 人 (0.0%)
歯学部	48 人 (100%)	42 人 (87.5%)	4 人 (8.3%)	2 人 (4.2%)	0 人 (0.0%)
薬学部	85 人 (100%)	67 人 (78.8%)	12 人 (14.1%)	6 人 (7.1%)	0 人 (0.0%)
工学部	635 人 (100%)	538 人 (84.7%)	87 人 (13.7%)	10 人 (1.6%)	0 人 (0.0%)
農学部	131 人 (100%)	123 人 (93.9%)	5 人 (3.8%)	3 人 (2.3%)	0 人 (0.0%)
合計	2,262 人 (100%)	1,963 人 (86.8%)	252 人 (11.1%)	47 人 (2.1%)	0 人 (0.0%)
(備考) ・四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合がある (小数点第 2 位を四捨五入)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) シラバスについては、フォーマットは全学で統一としたうえで、授業内容、到達目標、教科書、成績評価の方法などの基本項目を定めている。また、フォーマットの詳細は定期的に見直すこととしている。 各授業担当教員は、全学統一シラバスフォーマットに、「シラバス作成上の留意事項」「シラバス入力の手引き」等に従い、シラバスを作成する。 全授業科目において学生の履修登録開始前の3月末までに日本語版、英語版シラバスを作成し、HPにて公開しており、学外からも閲覧可能としている。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 成績評価は、授業の形態（講義、実験、実習、演習、実技等）に対応し、期末テストのみに偏重することのないよう、出席、学習態度、報告・発表、レポート、テスト等の多様な要素を組み合わせ、多面的な方法によって行っている。卒業の認定に当たっては、定められた卒業要件を満たすことがディグリー・ポリシーで示す学生が身につけているべき能力を満たすこととなり、学生の修得単位数等を踏まえ、学部長の申し出により学長が卒業を認定している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	人文学科	124 単位	有・無	年間 48 単位 ○全学共通科目「留学生支援ボランティア実習」、「学生支援ボランティア実習」、「アクセシビリティ実習」及び補習教育科目は履修上限に含まない
教育学部	学校教育 教員養成課程	126 単位 (特別支援教育専攻(小学校教諭免許:139 単位・中学校教諭免許:133 単位)、幼児教育専攻:125 単位)	有・無	年間 50 単位 ○グローバル人材育成特別コース履修学生は8 単位まで追加履修可能 ○複数学期にわたって開講される授業科目の単位数は、当該科目の単位数を開講される学期数で除した数をそれぞれの学期に算入する
	養護教諭 養成課程	125 単位	有・無	
法学部	法学科	124 単位	有・無	年間 44 単位 ○当該年度の履修修得単位数(卒業単位資格)が38 単位以上で、修得した科目(卒業資格単位となる科目)の平均点が80 点以上の場合は、次年度の履修登録単位数の上限を年間 50 単位(法曹プログラム履修者は55 単位)とする。ただし修得単位の評価に認定及び修了がある場合は、当該単位を平均点の算出の対象から除く ○グローバル人材育成特別コース履修学生は、履修科目の登録単位数の上限を超えて履修可能
	法学科 (夜間主コース)	124 単位	有・無	規定なし ○履修単位数の上限は設けないが、年間 44 単位を超えない範囲にして、各科目の予習・復習を行うことが望ましい

経済学部	経済学科	124 単位	①・無	年間 44 単位 ○4 年次の履修上限はなし ○卒業要件単位数に算入しない「教育職員免許状の取得に係る教職に関する科目」、「職業指導に関する科目」、副専攻コース」、「高度学修指導」は履修上限に含まない ○「グローバル人材育成特別コース」の科目は履修上限に含まない ○補修教育の授業科目は履修上限に含まない ○本学の交流協定等に基づく 3 ヶ月以上の留学後は、3 年次まで履修単位の上限を年間 60 単位とする
	経済学科 (夜間主コース)	124 単位	①・無	制限なし ○夜間の授業科目及び集中講義科目は無制限 ○昼間に開講される授業科目は年間 20 単位(集中講義科目を含まない)までとする ○卒業要件単位数に算入しない「教育職員免許状の取得に係る教職に関する科目」、「職業指導に関する科目」、「副専攻コース」等は履修上限に含まない ○「グローバル人材育成特別コース」の科目については履修上限に含まない ○補修教育の授業科目は履修上限に含まない
理学部	数学科	124 単位	①・無	年間 50 単位 ○「補習授業(初等数学、初等物理学、初等化学、初等生物学)」、「基礎英語」及び「その他別途通知する科目」は履修上限に含まない ○入学前の既修得単位を本学部において修得した科目は履修上限に含まない ○外部検定試験等により単位認定された科目は履修上限に含まない
	物理学科	124 単位	①・無	
	化学科	124 単位	①・無	
	生物学科	124 単位	①・無	
	地球科学科	124 単位	①・無	
医学部	医学科	193.4 単位 (地域枠:195.9 単位)	①・無	年間 50 単位 ○卒業要件単位数に含まれない科目は履修上限に含まない ○入学前の既修得単位を本学部において修得したものとして単位認定された科目は履修上限に含まない ○外部検定試験等により単位認定された科目は履修上限に含まない
	保健学科	124.5 単位	①・無	
歯学部	歯学科	190.15 単位	①・無	年間 50 単位
薬学部	薬学科	191 単位 (R7 入学者:188 単位) (R6 入学者:192 単位) (R5 入学者:191 単位) (R4 入学者:190 単位) (H31～R3 入学者:189 単位)	①・無	年間 50 単位 ○グローバル人材育成特別コースに関する科目の単位数、外部検定試験等により認定された単位数は、これに含まない。
	創薬科学科	129 単位 (R7 入学者:127 単位) (R3～R6 入学者:130 単位) (R2 入学者:127 単位)	①・無	

工学部	工学科 機械システム系	126 単位	有・無	年間 50 単位 ○「特別研究」、「卒業要件外単位として扱われる教員免許取得に必要な科目」、「自然科学の補習授業」、「グローバル人材育成特別コース」を修了するために必要な科目」、「インターンシップ」、語学検定試験による単位認定」、「他大学で履修した科目の単位認定」、及び夏季・冬季・春季集中科目は履修上限に含めない ○前年度の成績が優秀な学生はその年度に限り上限単位を超えての履修が可能(平均点が 80 点以上の者は年間 8 単位まで増加可能。平均点が 75 点以上 80 点未満の者は年間 4 単位まで増加可能)
	工学科 環境・社会基盤系	126 単位	有・無	
	工学科 情報・電気・数理 データサイエンス系	126 単位	有・無	
	工学科 化学・生命系	126 単位	有・無	
	工学科情報工学 先進コース	126 単位	有・無	
	機械システム系 学科	124 単位	有・無	年間 60 単位 ○「特別研究」、「グローバル人材育成特別コース」、「卒業要件外として扱われる教員免許取得に必要な科目」、「自然科学の補習授業」の科目は履修上限に含めない ○前年度の成績が優秀な学生はその年度に限り上限単位を超えての履修が可能(平均点が 80 点以上の者は年間 4 単位まで増加可能。平均点が 75 点以上 80 点未満の者は年間 2 単位まで増加可能)
	電気通信系学科	124 単位	有・無	
	情報系学科	124 単位	有・無	
	化学生命系学科	124 単位	有・無	
環境理工学部	環境数理学科	124 単位	有・無	年間 60 単位 ○「教育職員免許状の取得に係る科目」、「グローバル人材育成特別コース」、「その他の卒業要件外科目の単位」、「取得できなかった単位」も含まれる
	環境デザイン 工学科	124.5 単位	有・無	
	環境管理工学科	124 単位	有・無	
	環境物質工学科	124 単位	有・無	
農学部	農学科	124 単位	有・無	年間 50 単位 ○グローバル人材育成特別コース、副専攻コース及び教育職員免許状の取得に関わる科目の履修者については、1 年間に履修科目として登録できる全学共通科目、英語科目及び専門教育科目の単位数の上限は合計 60 単位とする
	総合農業科学科	124 単位	有・無	年間 60 単位 ○「グローバル人材育成特別コース」、「教育職員免許状の取得に係る科目」、「副専攻コース」科目の履修者は年間(合計)70 単位を上限とする
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/sel.html>

※ 岡山大学の教育情報→ 1. 教育研究活動の状況についての公表→ (7) 校地、校舎等の施設/学生の教育研究環境(設備等)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部 教育学部 法学部 経済学部 理学部 医学部 歯学部 薬学部 工学部 環境理工学部 農学部		535,800 円	282,000 円	0 円	
法学部 夜間主コース 経済学部 夜間主コース		267,900 円	141,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 本学では、教育推進機構 学生支援部門 学生相談室に、臨床心理士の資格を持つ専任教員 2 名及びカウンセラー 2 名を配置するとともに、各学部・研究科にも相談協力教員を置き、学生の学生生活上の様々な悩み（修学関係、進路や適性、自分の性格や生き方、人間関係等）について全学協力態勢で相談に応じている。また、同相談室では、学生ピアサポーターを募集し、学生相談室だよりの発行、学生を対象とした公開セミナーに随時参画させている。また、教育推進機構 学生支援部門 障がい学生支援室に専任教員 2 名、コーディネーター 1 名及びカウンセラー 1 名を配置し、障がいのある学生やその保護者・教職員からの相談に対応しており、関係学部・研究科等と連携し、ボランティア学生の協力のもと、必要な支援サービスを提供している。また、障がい学生支援室だよりの発行、ボランティア学生の養成・支援技術の啓発・公開セミナーも行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 教育推進機構 学生支援部門 キャリア・学生支援室では、「キャリアデザインⅠ～Ⅱ」の授業及び正課外活動（部活動等）支援によるキャリア教育を行うとともに、専任教員、キャリア・アドバイザーによる進路・就職相談、年間を通じての就職ガイダンス等を開催し、キャリア教育と就職支援の両面で、学生の進路選択をサポートしている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 安全衛生推進機構 保健管理部門（保健管理センター）において、健康診断、専門の医師・カウンセラーによる心身の健康相談、健康教育、応急処置等、学生の身体と心の健康をサポートし、病気の予防や健康の増進を図っている。また、必要に応じて教育推進機構 学生支援部門 学生相談室及び障がい学生支援室等と連携を取りながら学生をサポートしている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/sel.html

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み

○ダブルメジャー

本学では、令和4年度に文部科学省・デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業（通称：X（クロス）プログラム）への提案が採択され、令和7年4月に大学院教育学研究科に「教育データサイエンス学位プログラム」を設置した。同プログラムでは、教育学とICT・データサイエンスを融合し、企業等と連携した実践的な学びを通じて、教育課題の解決を担う人材を育成する教育環境を整備している。令和7年度は第1期生として4名を受け入れた。

○AI・数理データサイエンス教育

本学では、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の認定制度に対応した2つのカリキュラムを開講しており、それぞれの学部に応じたコンテンツを含んだ「リテラシーレベル」、「応用基礎レベル」の内容となっている。リテラシーレベルは令和3年度（令和8年度に再認定）、応用基礎レベルは令和5年度に文部科学省の認定を受けている。

「文系から理系までの学生を遍く対象とする数理・データサイエンス教育プログラム（リテラシーレベル）」では、令和5年度770名、令和6年度1,792名、令和7年度2,012名に対して、卒業時に修了証を交付した。また、「数理・データサイエンス教育プログラム（応用基礎レベル）」では、令和6年度に5名、令和7年度は408名に対して、卒業時に修了証を交付した。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F133110109503
学校名（〇〇大学 等）	岡山大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	国立大学法人岡山大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		2,332人（ 1710 ）人	2,293人（ 1672 ）人	2,406人（ 1,753 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	475人	456人	
	（うち多子世帯）	（ 122 ）人	（ 111 ）人	
	第Ⅱ区分	208人	203人	
	（うち多子世帯）	（ 46 ）人	（ 37 ）人	
	第Ⅲ区分	161人	163人	
	（うち多子世帯）	（ 54 ）人	（ 53 ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	288人	247人	
	区分外（多子世帯）	1,200人	1,224人	
家計急変による 支援対象者（年間）				12（ - ）人
合計（年間）				2,418人（ 1,756 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	-	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	-	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	人	人
計	11人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	12人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	-	人	人
G P A等が下位4分の1	60人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	-	人	人
計	60人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。